

### 表紙解説

表紙 尺間天満神社奉納杖踊り

この表紙は、八月二十日八時半より弥生尺間地区にあります尺間天満神社で行われた「風流杖踊り」の奉納祭典の一場面



です。

今年には尺間天満社と愛宕神社の二社合同の祭典で早朝より親子連れの人々が参加していました。

この風流杖踊りは、正徳元年に荒川流棒術として伝えられたものです。元田地区では代々杖踊りが伝えられ、明治初頭に愛宕神社に奉納された事が始まりだそうです。

風流杖踊りは佐伯、弥生、直川、宇目、本匠地区にも伝えられています。

今回の尺間天満神社の奉納杖踊りは元田、尺間、大坂本地区の方々が、奉納したものです。

小さな子ども達の扇子踊りや勇壮な杖踊り、奉納の最初と最後にでた獅子舞など、元氣いっぱい姿を見せて頂きました。

## 編集後記

会員の皆様 お待たせ致しました。

会誌、第二三一号をお送りします。

今回は、秋月橋門の「橋門韻語」と幕末の佐伯藩にお預けになった水戸藩士、鮎澤伊太夫のお話し(二)を研究として載せました。

また、「深島の流人史」と題して、坂本義明会員が郷土の歴史の一面を、児玉潤子会員が明治十年の西南の役を今泉家文書より史料紹介の形で投稿して頂きました。

他には四月の日帰り日田研修旅行と、会員三名による研究発表会の様子を載せています。

原稿については、内容のかたよりや難易度についてのお考えを聞きますが、学術書としての位置づけと、読みやすい会誌のあり方で、試行錯誤しています。このような内容が良いのではとお思っている方、奮って原稿をお送り下さい。お待ちしております。

(編集部 吉田)